2015 年度（第 30 回）日本鳥類標識協会大会札幌大会開催結果報告

2015 年度（第 30 回）日本鳥類標識協会大会札幌大会は、2015 年 8 月 29 日（土）～30 日（日）の 2 日間、札幌市で開催されました。以下に概要を報告します。

シンポジウムおよび一般講演の講演要旨は、大会のプログラムにリンクしてありますのでご覧ください。

１日目（8 月 29 日）

今回の大会運営に全面的な支援、協力をしていただいた北海道バンダー連絡会の藤巻裕蔵代表の開会あいさつから始まり、続いて、「標識調査による繁殖期バンディングの意義と活用」というタイトルでシンポジウムが行われました。

開会あいさつ（北海道バンダー連絡会代表・藤巻裕蔵氏）

シンポジウム

まず、山階鳥類研究所の尾崎清明氏から、本シンポジウムを開くにあたっての趣旨説明があり、その後、３題の講演が行われました。まず山階鳥類研究所の仲村　昇氏から、繁殖期のバンディングはわが国ではあまり行われていないが、海外では古くから個体群動態モニタリング手法として、多くの調査地で継続的に行われており、大量の重要なデータが蓄積されているとの報告があり、わが国でも 2012 年から繁殖鳥モニタリングとして実施されていることが紹介されました。次に、新潟大学の永田尚志氏から、長年鳥類の繁殖生態を研究してきた経験から、繁殖期の鳥類を捕獲し、バンディングをすることについての注意点や繁殖期に捕獲してわかることなどについての解説がありました。最後に、森林総合研究所北海道支所の川路が、2013 年から実際に繁殖鳥モニタリングを行っている現場とし

て、札幌・羊ヶ丘での調査結果を事例として挙げ、何が明らかになったか、またどこに繁殖期バンディングの魅力があるかをお話ししました。その後、講演者３名を前に、各講演についての質問、繁殖鳥モニタリングサイトを拡大するにあたっての問題点などについて、尾崎氏の司会進行により総合討論を行いました。今後、全国的に繁殖鳥モニタリングサイトを広げるには、現在利用されている日本版 MAPS のマニュアルに厳密に沿って行うことがボランティアバンダーにとっては厳しいこと、チームを作って継続している事例などの紹介を通して、長く継続できる調査地を確保することが重要との方向で意見が一致しました。

シンポジウム進行（座長：尾崎清明氏）

講演１（演者：仲村　昇氏）

講演２（演者：永田尚志氏）

講演３（演者：川路則友）

３名の演者を前に総合討論（左から、仲村　昇氏、永田尚志氏、川路則友）

一般講演①

一般講演は３部に分かれ、まず１日目は、分類、識別に関する３題で行いました。茂田良光氏から、セジロタヒバリとコセジロタヒバリの識別と形態から見た分類上の問題点の提起、小田谷嘉弥氏から、識別の難しいオオジシギとチュウジシギについて、従来から言われている計測値と尾羽の枚数だけでは誤判定を招く個体がいること、チュウジシギにはかなりの個体変異があることが示唆されるとの報告がありました。中川　元氏からは、飼育状態で繁殖したオオワシの幼鳥羽から成鳥羽へ変化していく過程を観察した貴重な例が報告され、これまでほとんどわかっていない、オオワシの詳細な羽衣の変化が示されました。

一般講演１（演者：茂田良光氏）

一般講演２（演者：小田谷嘉弥氏）

一般講演３（演者：中川　元氏）

総会

引き続き、会員のみが参加して、今年度総会が開かれ、多くの議題で活発な意見交換が行われました。総会の内容については、日本鳥類標識協会誌に掲載予定です。

懇親会

会場を、近くのホテルポールスターの会議室に移し、懇親会が開かれました。札幌の大会へ遠く京都から参加していただいた須川　恒氏の乾杯の音頭で始まり、ギター奏者による名演奏を聴きながら、あちこちでなごやかな談笑、議論が聞かれました。

２日目（8 月 30 日）

一般講演②

まず、佐藤理夫氏による、北海道バンダー連絡会の歴史と活動紹介の講演から始まりました。北海道バンダー連絡会の結成は、日本鳥類標識協会の設立から 1 年後の 1987 年で、超人的なバンダーであった三浦二郎氏が代表となり、道内バンダーの結束、親睦を深めるために精力的に尽力されました。三浦氏が亡き後、藤巻代表のもとで現在も共同調査、識別マニュアル作成など、積極的な活動を行っています。つぎに、玉田克巳氏から、北海道の道東と道央で捕獲されるアオジに一定の時期に体重の大きな差が生じる事例が紹介されました。河原孝行氏からは、石狩川下流域でいくつかのコロニーを作って繁殖するショウドウツバメのコロニー間の交流について、5 年間のバンディングを通して判明したこと、須川　恒氏からは、オオミズナギドリが生まれた場所に回帰する傾向について、しかもかなり狭いスケールで正確に戻ってくることが判明したことが報告されました。中田達哉氏からは、ある意味、北海道ならではと言える広大な牧草地での興味あるバンディングと問題点について報告がありました。それぞれ講演後に活発な質疑応答が行われました。

一般講演。会場の様子

一般講演 4（演者：佐藤理夫氏）

一般講演 5（演者：玉田克巳氏）

一般講演 6（演者：河原孝行氏）

一般講演 7（演者：須川　恒氏）

一般講演８（演者：中田達哉氏）

一般講演③

休憩を挟んで、最後に３題の講演が行われました。まず、尾崎清明氏から、希少鳥類のヤンバルクイナについて、保護活動のために捕獲が必要な場合に、これまでカゴワナ、ボウネットの改良などの工夫で捕獲効率を上げる努力を続けているなかで、現地で彼らの天敵であるハブを用いることにより、モビングを行う個体を効率よく捕獲できることを突き止めたという興味深い報告がありました。齋藤武馬氏からは、世界的プロジェクトとして行われている DNA 配列による種の登録データベースづくり（DNA バーコーディング）の紹介と、標識調査中に不慮の事故で死亡し、山階鳥類研究所に送付された個体をどのように有効活用しているかの説明がありました。最後に吉安京子氏から、戦前の農林省時代からのバンディング結果の有効活用のために、膨大なデータベースを整理する必要があり、これまで入力をしてきたこと、最後に残った未入力のデータも予算の目途が付き、ほぼデータベース体制が構築されていることが報告されました。

一般講演 9（演者：尾崎清明氏）

一般講演 10（演者：齋藤武馬氏）

一般講演 11（演者：吉安京子氏）

最後に、閉会あいさつとして、会長でもあり、今回の大会実行委員でもあった川路から、参加者への御礼と、講演などへの感想を申し述べて、無事閉会としました。

閉会あいさつ（会長＆実行委員　川路則友）

その後、記念撮影をしたのち、解散となりました。

希望者は、会場から江別市にある、道立自然公園野幌森林公園に向かい、クマゲラの営巣穴、原生林の名残りである巨木などを堪能して帰途につかれたとのことです。

エキスカーションの様子（道立自然公園野幌森林公園）

今回の大会は、開催日が本州以南ではおそらく夏休みの最終土日であったこと（北海道では 8 月 20 日前後に大部分の学校で２学期が開始されます)、北海道マラソン、はまなす車いすマラソン、といったビッグイベントの開催と重なったことなどから、当初から宿泊施設の予約がとれないなどの理由で参加を断念された会員もおられたと聞き及んでおります。これは実行委員の配慮不足による不手際であり、深くお詫び申し上げます。なお、そんな状況にもかかわらず、48 名もの参加者が集まってくださり、2 日間、活発に意見交換、親睦を深めることができました。実行委員一同、深く感謝申し上げます。

実行委員を代表して川路則友　記